

学科・専攻教育改善委員会(FD 研修会)議事録
(大学院科目の部)

日時: 2008年3月19日, 15:50~17:55

場所: 都市システム工学科東棟(S2棟)3階 会議室

出席者(敬称略): 福澤, 安原, 横山, 小柳, 沼尾, 呉, 井上, 金, 山田, 小峯, 横木, 寺内, 原田, 桑原, 信岡, 村上

欠席者(敬称略): 三村

議事

(1) 後期大学院科目の点検と評価

担当者が資料に基づいて報告した。主な質疑応答を付記する。

(a) 建築デザイン特論(寺内)

内容は個人によって変わるので、個別に指導した方が効率がよい。学生個人ベースで15回分確保している。

(b) 地震工学特論(井上)

開講日は月曜3限。月曜日は休講が多かったので、補講で対応した。

(c) 水防災モデリング特論(信岡)

開講日は火曜1限だったが、受講生の申し出(研究室のゼミの予定)により火曜4限に変更した。研究室のゼミの予定と授業の開講が重なったときは、それぞれの場合で対応する。

(d) コンクリート工学特論(福澤)

受講生が少ない。前期・後期のバランスの影響と思う。これに対しては、教員の自己都合で開講時期を決めるのではなく、系統樹に基づく開講計画が必要。また、受講科目数の制限なども考えられる。

(e) 交通計画特論(山田)

昨年より受講生が増えた。コンサルタントにとっても必要な知識が得られると宣伝した効果か? 開講は火曜3限。

(f) 社会経済システム学特論(金)

最終アンケートがまだ返ってきていないが?

(g) 基礎地盤工学特論(安原)

途中で抜けた学生がゼロ。受講生の内訳は、地盤8名+景観2名。ハイド先生が英語でやったりして評判がよかった。

(h) 環境工学特論(三村)

説明なし。後日資料を回覧。

(i) 地球変動適応科学特論 I(三村)

説明なし。後日資料を回覧。

(2) 都市システム工学特別研究 II, 都市システム工学特別演習 II の各グループからの報告

各研究グループから資料に基づいて説明があった。構造グループは、口頭で説明の後資料を回覧した。

(3) 全体討論

主な議論を箇条書きにまとめる。

✓ JABEE シラバスの位置づけ: 学科ホームページからダウンロード出来る。学科特有の取り

組みのよい PR になる。

- ✓ 学科の自己点検改善表と学部の Web 入力のように、同じような入力をしないで済むように、まとめ作業の効率化はできないか： 学科間で足並みが揃っておらず、現状では学務事務からの十分な支援は得にくい。次回の JABEE 受審へ向けて頑張るなら、当分この態勢でやるしかない。
- ✓ LiveCampus のシラバスのフォーマットを変えられないか： 現在 LiveCampus を取り巻く状況は厳しいものがあるので、時期をみて提案していく。
- ✓ 合格最低ランクの答案(レポート)の添付が膨大になるので、数を限定出来ないか： 最低ランクの人数が 5 人以上の場合は、下から 5 人分を添付することとする。これは、次回の授業記録の表紙の欄外に注記する。
- ✓ 複数の教員が分担している授業では、授業点検改善表の書き方の統一がとれていない： 分担したすべての教員が記入する項目と、とりまとめ教員が代表して記入する項目と区別する。
- ✓ 学則に、試験を受験するための資格として 2/3 以上の出席と明記されているので、出席は必ずとるようにして下さい。
- ✓ 都市システム特別講義の成績評価法では、2 回の見学会のレポートの配点が 50 点なので、原理的にはこの 2 つのレポートだけで単位が取れてしまうことがあるのではないかと： 点数ではそうになってしまうので、出席回数なども加味して採点するよう注意する。
- ✓ 学科の授業改善のための PDCA がうまく回っているのか、それをどう改善していくのかという PDCA サイクルも回す必要がある： 今日の議論を受けて JABEE WG で議論した後、学科会議で提案・議論したい。それが、後者の PDCA となるよう位置づけをしたい。
- ✓ 前回の受審時に指摘された教員間連携をもっと充実させる必要がある。
- ✓ 次回の受審へ向けて： 方針を決定する。議事録が非常に大事である。教養科目の対応も考える必要がある。
- ✓ JABEE の議論では、往々にして最低レベルを押し上げる話が多いように思う。もっと上位の学生に目を向けて指導しないと、逃げられてしまうのではないかと： これについては個々の授業レベルでの取り組みと、システムとしての取り組みがあり、後者の重要な科目が、都市システム工学序論や主題別ゼミナールであろう。次回の FD では担当者はその点での報告もお願いする。
- ✓ 学生の順位を決める際の成績評価は、GPA で本当にいいのか： これまでの経緯もあるが、それぞれの計算方法が何らかの尺度となり、一概にどれがいいとは言えないのではないかと。
- ✓ 社会的要求と合格レベルの設定で、例えば材料力学のような基礎科目では、あまり出口(卒業時)を意識せず、次の科目へ繋がることを配慮すればいいのではないかと： 各科目の守備範囲、到達ゴールがあまり明確ではない。分野別の教員会合が必要ではないかと。

(4) 閉会のあいさつ

沼尾専攻長からあいさつがあった。

以上
(記録:横木)